

第32期目録委員会記録 No.9

第9回委員会

日時：2010年1月23日（土）14～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、木下、酒見、鴫田、平田、古川、横山、渡邊

<事務局> 磯部

[配付資料]

1. Names of Persons（日本語該当部分）（4ページ-A4、東委員）
2. [IFLA目録分科会ISBDレビュー・グループの会合（2010年2月4-6日）の議題]のプリントアウト（2ページ-A4、渡邊委員）
3. 目録の提供と作成に関する調査（5ページ-A4、木下委員、酒見委員）
4. NCRの改訂に関する個人メモ（6ページ-A4、古川委員）
5. NCR改訂の方向性について（検討メモ）：平成21年1月23日改訂版（5ページ-A4、原井委員長）
6. 目録規則の改定について（目録業務担当外の視点の私的メモ）（2ページ-A4、木下委員）
7. NCR課題管理票（7ページ-A4、横山委員）
8. 第32期目録委員会記録 No.7（7ページ-A4、事務局）
9. 第32期目録委員会記録 No.8（3ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第7回記録（資料8）と第8回記録（資料9）を確認した。

2. Names of Persons の日本語該当部分について

原井委員長より、資料1をメーリング・リスト上での意見交換を経て確定し、国会図書館からIFLA目録分科会へ送付したと報告された。

3. ISBD統合版について

渡邊委員より、2月の会合で統合版を総点検するための議題の一覧である資料2が紹介され、日本語の事例についての意見を今月中に提出する予定であると報告された。議題は、タイトルに“Consolidated”を含めるか、エリア0の取り込みとほかのエリアとの一貫性の改訂、記述に典拠管理に関連する情報をどの程度含めるべきか、ISBDは非刊行資料を含めるべきか、ISBD区切り記号をMARC21の各サブフィールド末尾に記録するかなどである。

4. 委員の委嘱について

かねての懸案である公共図書館界からの委員の選出について、JLAから都立中央図書館へ委員の参加を正規の手続きで要請するよう、JLAに依頼することとした。また今後NCRの改訂に伴い作業が増えると予想されるので、ほかにも増員を図ることを申し合わせた。

[検討事項]

1. 目録に関する調査について

前回の委員会での意見を反映して修正した調査シート案（資料3）について、「提供」の部を木下委員が、「作成」の部を酒見委員が説明し、内容の見直しを行った。その結果、個々の設問についてはほぼ確定したが、構成については次のように改めることとなった。

提供・作成の二部構成に代わって、最初に共通の設問（現案の問4～7と11）を掲げた後、OPACのみ提供している図書館向けの設問、カード・冊子体目録のみ提供している図書館向けの設問、双方を提供している図書館向けの設問の三つに分岐した構成とする。またそろそろレイアウトを工夫することや、A3、4ページとすることを申し合わせた。

2. NCRの改訂方針について

古川委員から、資料4について、NCRの改訂に着手する前に将来の目録のイメージを委員の間である程度共有する必要があること、粒度の微細化などの実現を目指すべきことなどが説明された。次に原井委員長から、資料5について、委員たちの意見を吸収合併しながら改訂してゆくなどと説明された。また木下委員から、資料6について、現場の視点から著作や表現形を生かした表示、著者や出版者の情報に基づく書誌レコードの作成などが説明された。

この後、標記について、主として次のような意見交換が行われた。

- ・今後の流れは、将来の目録像、NCRを維持する意義、対象（和のみ否か）、どのように改訂するか、NCRの評価に基づく要件、となるか。論点は順次繰り込む。
- ・カタログ - 間で齟齬を生じない目的の規定により記録したタイトルが、利用者ニーズと必ずしも一致しないことを考慮すると、表示についても扱うべきか（コード化など）。
- ・OPACにおいては、データの見せ方に枠をはめる必要はないのではないかと。
- ・NCRの評価について、次年度の図書館大会までに多くのことはできないが、何についての評価をするかは決める必要があり、また何が足りないか、も提示したい。
- ・最近「資源」という用語が使用されるようになったが、今のところは「資料」を説明しながら使う。
- ・所蔵の概念を使い続けつつ目録規則で扱うものは何か。目録と書誌の区別は必要か。アクセス制限が所蔵に代わる概念か。アクセス制限を機械可読的に扱うことは至難。
- ・構成については委員の間で現在3つの案がある。
- ・今のところ日本語資料に限定しない規則とする。
- ・読みを従来、標目として扱ってきたがそれだけで良いか。
- ・次年度の図書館大会以後に、コメントを受け付ける。

また、平田委員がNCRの評価項目と評価手法に関する資料を、渡邊委員がNCRを維持し続ける理由に関する資料を各々作成する。

3. NCR課題管理票について

横山委員から、資料7について、2005年段階のものを参考資料として提示した、との説明があり、新版の改訂作業がある程度進行してから点検することとした。

次回以降の委員会の予定

2月20日（土）

3月20日（土）

以上